

壁紙施工要領書

- フリース壁紙 -

■ 特長

- ・裏打ち紙に「フリース」を使用した新しいタイプのビニル壁紙です。フリースとは、パルプと合成繊維からできた不織布のことで、寸法安定性が高く、糊の水分による伸縮が少ないことが特徴です。
- ・専用糊を組合せて使うことにより、リフォーム時は下地に裏打ち紙が残らずきれいに剥がせて、下地調整の手間が軽減できます。
- ・一般的でん粉糊で施工した場合は、剥がすことが困難になり、当壁紙の特長である剥がし性を発揮できなくなりますのでご注意ください。

■ 下地調整

- ・下地は平滑に仕上げてください。
 - ・モルタル下地や木質下地には、アクによる変色やフクレを防ぐため、必ずシーラー処理を行なってください。
 - ・貼替え時には、下地面に残った残紙を剥がしてください。
- ※フリース壁紙とフリース専用糊が使用された現場の場合、下地面に裏打ち紙が残らず、きれいに剥がれます。

■ 接着剤と養生・オープンタイム

- ・必ず指定のフリース専用糊をご使用ください。当壁紙と相性が良い、ウォールボンド工業（株）の原液タイプのフリース専用糊「Fウォール」がおすすめです。他のフリース用糊では、きれいに剥がれない場合があります。
- ・接着剤塗布後は、大きくたたみ、上積みは避けてください。折りたたみ部分に糊だまりができ、仕上りに影響する場合があります。
- ・長時間つけ置きをする場合は、乾燥しにくいビニル袋等に入れ養生してください。
- ・接着剤を塗布した後、必要以上にオープンタイムを取ると乾燥し、相ハギなどが発生して施工不良の原因となる恐れがあります。
- ・伸縮がほとんどないため、オープンタイムを取らずにすぐ貼ることも可能です。

■貼付け

- ・見本帳等に記載ある有効巾で施工をしてください。
- ・カッターの刃先は鋭い状態を保ち、下地ボードの表面を切り込まないように下敷きテープを入れて施工してください。
- ・壁紙のジョイントは耳同士でジョイントしてください。巾落としによる耳と耳以外のジョイントの場合、左右色違いの原因となります。
- ・ジョイントのローラー処理は、エンボスつぶれや表面のツヤの変化が発生するため、必要以上に強く押さえないようにしてください。
- ・施工時に貼り起こしを何度も繰り返すと、糊が下地に取りられ接着力が弱まりますのでご注意ください。プラスチック製のコーナー材などには接着しにくいいため、捨て糊等の対処をしてください。

■施工後

- ・接着剤が壁紙表面に付着した場合は、すぐにきれいな水を使用し濡れスポンジ等で丁寧に拭き取り、更にきれいなタオル等で乾拭きしてください。糊や汚れが付着したまま放置すると、カビや変色の原因になります。
- ・施工後は、接着剤が安定するまで自然乾燥させてください。その間、冷暖房を強くかけ過ぎないようにお願いします。急速に乾燥させると剥がれ・めくれなどの原因になります。